

第 72 回日本臨床眼科学会

モーニングセミナー 10

日時：2018 年 10 月 13 日 (土) 07:45 ~ 08:45

会場：第 9 会場 (東京国際フォーラム ガラス棟 5F G502)

最先端技術の融合で 何が変わる？ Part 3

Navigation Laser along with OCT-Angiography

座長のことば

これまで見えなかった領域が、技術革新によって視覚化されるようになってきて久しい。今や OCT による三次元画像診断が、眼科診療に於いて必要不可欠な検査の一つになったことを疑う余地もないでしょう。

本年 4 月より OCT-Angiography が保険収載され、多くの先生方が既に導入又は検討されているのではないのでしょうか？

今回ご紹介する XR Avanti with AngioVue Imaging System (OptoVue 社) は、全世界の多くの施設で導入されており、数ある OCTA に関する文献の多くは、このシステムを使用した研究データを用いています。最新のソフトウェアでは、より広範囲で高画像の OCTA 画像を取得し、同時に検査時間の短縮も可能となりました。また従来から定評のある解析ソフトもより充実し、従来の FAZ 面積の計測や黄斑部周辺の血管密度を計測するだけでなく、視神経乳頭部の血管密度も計測できるようになりました。様々な方面で研究がなされ、今後は臨床現場における役割は増々重要になってくると思われます。

他方、パターン照射の紹介以降変化のなかったレーザー光凝固装置にも進歩がみられます。Navilas® (OD-OS 社) は、これまでの光凝固装置の概念を覆す眼底カメラベースの機器であり、事前に治療部位を決定し、その計画をアイトラッキング機能によって正確に実行することを可能にしました。施術前に、本器で撮影した眼底画像に OCT-Angiography、網膜厚マップおよび FA・IA 等の検査画像を自動合成することができるため、治療部位を明確にすることが可能です。また標準で搭載されている閾値下レーザー治療 (マイクロセカンドパルス) では、治療部位を視覚化することが可能な唯一のレーザー光凝固装置になります。

3 名の演者の先生には、それぞれの機器の具体的な使用経験についてご講演いただきます。タイトルにあります『最先端技術の融合』が、ご参加いただく先生方の診察・治療に役立つことを願っております。



座長

加藤 聡 先生

(東京大学大学院医学系研究科
眼科学教室 准教授)

演者 1 笠井 暁仁 先生

(福島県立医科大学医学部眼科学教室)

演者 2 中尾 新太郎 先生

(九州大学大学院医学研究院眼科学分野)

演者 3 新田 耕治 先生

(福井県済生会病院)

ACURA

共催：第 72 回日本臨床眼科学会 / アクセラ株式会社